「海」と「森」を知り、持続可能な社会の担い手になろう！

ネイパル厚岸

ネイパル環境レスキュー隊

1　事業のねらい

厚岸町が課題としている「海」と「森」について体験活動を通して知る。そこから持続可能な社会を成立たせるために、自分たちが何ができるのかということを考える。

2　事業の概要

■期日　R６.7.27(土)～7.28(日)　１泊２日
■対象　小学３年生～中学３年生
■人数　19 名
■場所　ネイパル厚岸、厚岸町アイニンカップ、木工センター他
■協力　Amamo Works、釧路総合振興局、厚岸町役場林務課

3　プログラム

7/27（土）	11:15～11:30 受　付 ※昼食を済ませて集合						開会式	説明 アイスブレイク	移動	海の生物観察会 （アイニンカップ）	移動	枝打ち体験 （5林班）	移動	オリエンテーション 荷物移動	夕食	講義 振り返り	入浴 ・ 自由	就寝準備	就寝
7/28（日）	起床・洗面	朝食	部屋点検等	移動	厚岸の木材で作品づくり（木工センター）	移動	ふりかえり	閉会式	12:30　解散										

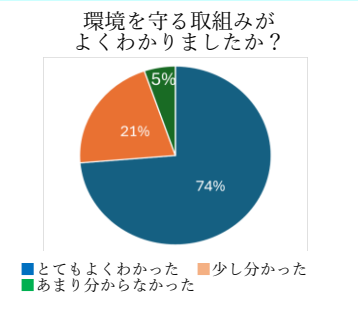
4　ねらいを達成するための活動の工夫

■「海」の多様性と「森」の大切さを体感できる体験活動
・「海の生物観察会」で、網を使って、厚岸町で見ることができる多くの生物を自分たちの力で採捕した。採捕したものを専門家に説明してもらうことで、より興味を持つよう工夫した。
・「枝打ち体験」では、枝打ちを行う意味を知り、森を守るための大切な作業であることを意識しながら活動した。
■持続可能な社会に携わっていると感じることができる体験活動
・厚岸町木工センターにおいて、厚岸町で間伐された木材を使った工作を体験した。

海の生物観察をする参加者

厚岸の木の枝を伐採

5　事業の評価



■参加者アンケートから
「環境を守る取組がよく分かりましたか」の問いに参加者 19 名中 14 名が「よく分かった」、4 名が「少し分かった」とほとんどの参加者が肯定的な回答をした。
■参加者の様子
「森、海は何のためにあるのか、どうしてきれいにしなくてはいけないのかを学んだ。」など「森」と「海」の繋がりを意識している回答が多くみられた。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●「海」と「森」が密接に繋がっていること。持続可能な社会を成立させるためにどのような取組がなされているかを知ることができた。
○「海」や「森」を守る活動について知ることはできたが、持続可能な社会を成立させるために、自分たちができることを考えるための手立てが足りなかった。

企画のポイント

環境を守るための取組を知り、持続可能な社会の担い手であるという意識が芽生えるような体験プログラム